

# 平成19年度 きのくに技能奨励賞

きよ た ひろ き  
清 田 裕 希 (刀銘 清田 次郎國悦)

住 所：和歌山県有田郡有田川町

出 身 地：兵庫県

生 年：昭和50年

■現在

美術刀剣刀匠

## ◎業績及び経歴

高校二年生の夏休み、古本屋で日本刀の入門書を見たのがきっかけで、刀剣博物館(東京都渋谷区)を訪ね日本刀に魅せられる。平成6年、兵庫県立明石高等学校卒業と同時に奈良県吉野郡東吉野村の刀匠河内國平氏に弟子入りする。

六年間の住み込み修行の後、平成12年に独立し清水町(現：有田川町)で作刀活動を行う。同年、新作名刀展で初入選、その後、毎年入賞を果たしている。

日本の美意識が凝縮されている日本刀は、反り加減などの「姿」、「地金」の持つ風合い、「刃文(はもん)」の多様性の三つが合わさって独自の魅力が生み出され、千年生きるといわれている。

その作業は、島根県から取り寄せた玉鋼(たまはがね)を1300度に熱して練り鍛えていき、刀一本を一か月ほどで打ち終えていくという。

室町時代末期の与三衛門尉祐定を中心とした備前伝に倣い、その作風をものにすべく研究を行うとともに、「この時代なら、この鍛冶屋の、この刀」と伝えられるような、自分だけの刀を目指している。